

平成28年度第1回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	◆調査対象 川崎市在住の18歳以上の男女	◆調査期間 平成28年8月31日(水)～9月5日(月)
	◆調査方法 インターネット調査	◆有効回収数 1,500 標本
◆標本抽出 インターネットモニター登録者から抽出		
調査項目	1 町内会・自治会活動の活性化について	2 女性活躍推進及び働き方の意識について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	761	50.7
2 女性	739	49.3
(無回答)	-	-
合計	1,500	100.0

2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	237	15.8
2 幸区	166	11.1
3 中原区	251	16.7
4 高津区	229	15.3
5 宮前区	227	15.1
6 多摩区	215	14.3
7 麻生区	175	11.7
(無回答)	-	-
合計	1,500	100.0

3 性／年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 18～29歳	204	13.6	80	10.5	124	16.8	-	-
2 30～39歳	314	20.9	162	21.3	152	20.6	-	-
3 40～49歳	348	23.2	179	23.5	169	22.9	-	-
4 50～59歳	247	16.5	128	16.8	119	16.1	-	-
5 60～69歳	306	20.4	164	21.6	142	19.2	-	-
6 70歳以上	81	5.4	48	6.3	33	4.5	-	-
(無回答)	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,500	100.0	761	100.0	739	100.0	-	-

1 町内会・自治会の活性化について

1 町内会・自治会への加入の有無

全体（n=1,500）では、「加入しており、役員等をしている」（7.1%）、「加入しているが、役員等はしていない」（47.2%）を合わせた「加入している（計）」は、54.3%となっている。

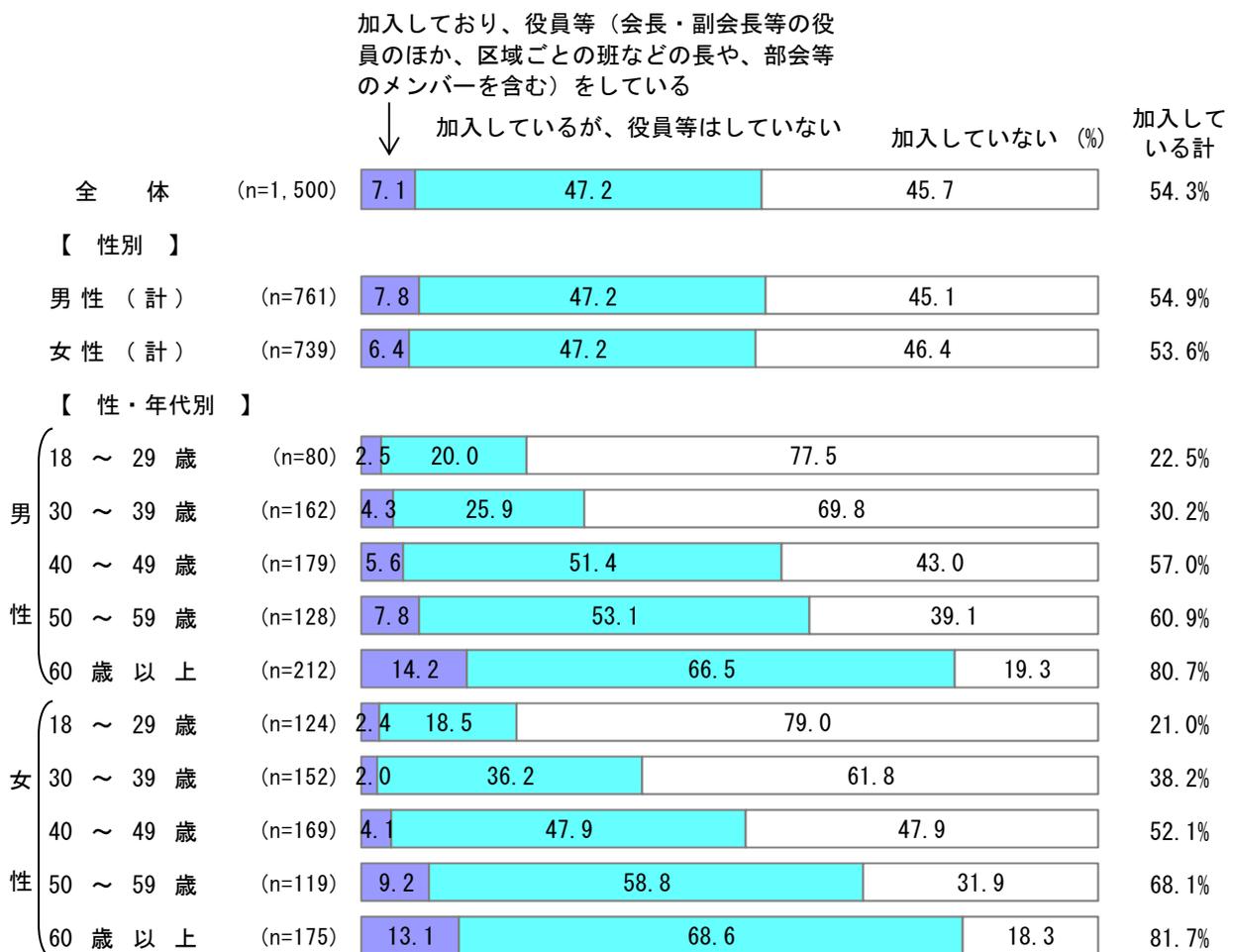
性・年代別では、男女共に、年代が上がるにつれ、加入率が高まる傾向が見られる。また、役員をしている割合についても同様の傾向が見られる。

男女共に 60 歳以上では、8割の方が加入しており、役員をしている割合も他の年代に比べて高い傾向が見られる。

※平成 28 年 4 月 1 日現在の川崎市における町内会・自治会加入率は 63.2%となっている。本アンケートでは「加入している（計）」が 54.3%となっているが、インターネット調査のため、高齢者の回答が少なかったこと等が影響したものと考えられる。

■町内会・自治会への加入の有無

図 1



2 町内会・自治会への加入の主なきっかけ

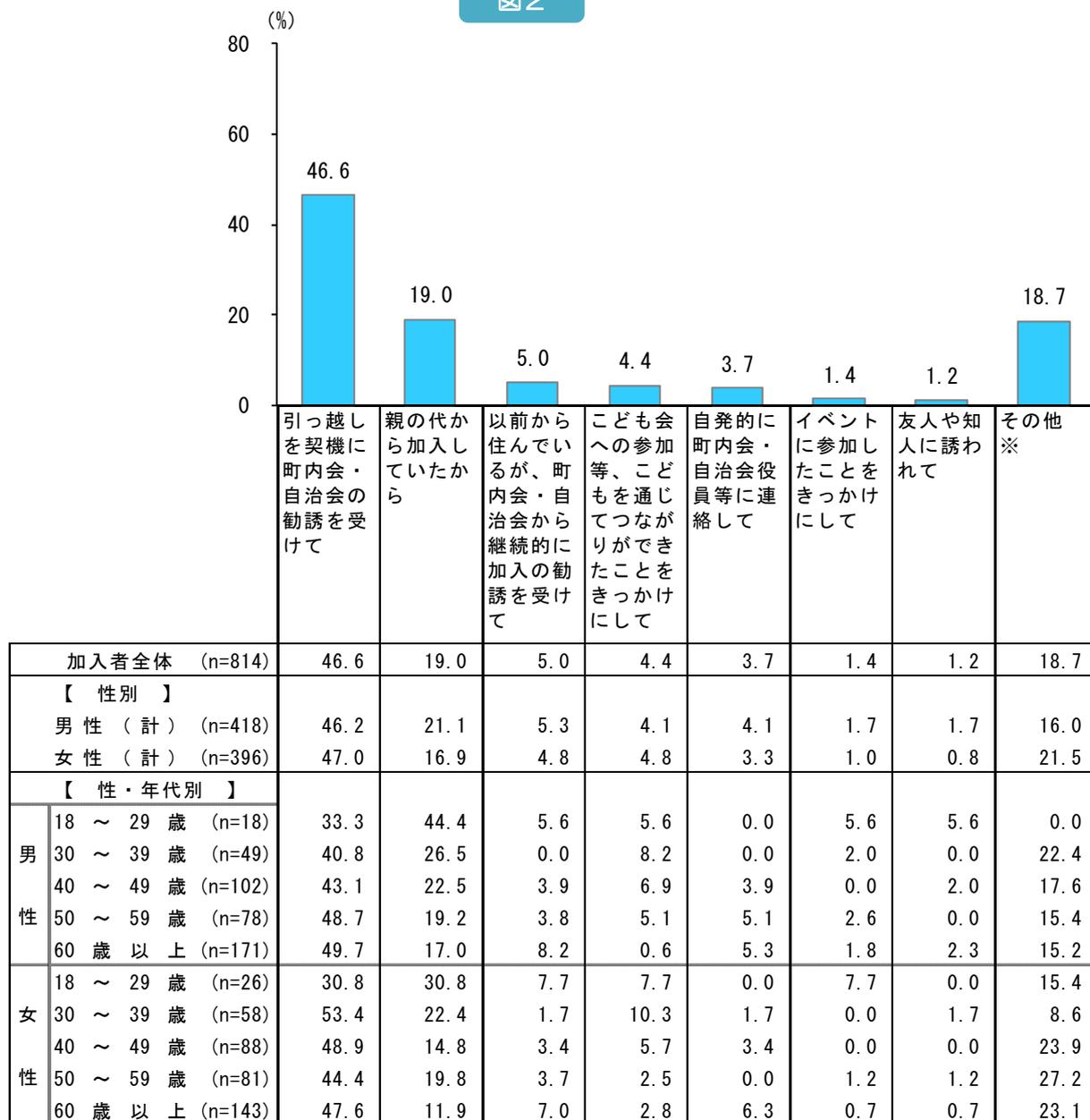
加入者全体(n=814)では、「引っ越しを契機に町内会・自治会の勧誘を受けて」(46.6%)が最も多く、次いで「親の代から加入していた」(19.0%)が続く。

また、「引っ越しを契機に町内会・自治会の勧誘を受けて」(46.6%)と「以前から住んでいるが、町内会・自治会から継続的に加入の勧誘を受けて」(5.0%)を合わせると、約半数が勧誘を受けたことが加入のきっかけとなっている。

性・年代別では、「女性・30～39歳」で、「子ども会への参加等、子どもを通じてつながりができたことをきっかけにして」が他の年代に比べやや高めの傾向が見られる。

■町内会・自治会への加入の主なきっかけ

図2



※「その他」回答上位

- ・マンション等で一括加入 (98人)
- ・社宅なので (5人)
- ・義務的／自動的に (31人)
- ・不動産屋で／契約で (4人)

3 町内会・自治会活動に積極的になるために町内会・自治会がやるべきこと

全体 (n=1,500) では、「今より積極的に関わるようになるような策はない」(39.8%) が最も多い。

上記以外では、「気軽に企画や運営に参加できるような環境を整える」(30.7%) が最も多く、次いで「活動の内容など町内会・自治会に関する情報を積極的に発信する」(19.7%)、「自分に興味のある活動を増やす」(18.7%)、「情報発信や連絡調整にインターネットや電子メールを活用する」(17.5%)、「自分が参加できるような時間帯の活動を増やす」(16.3%) と続く。

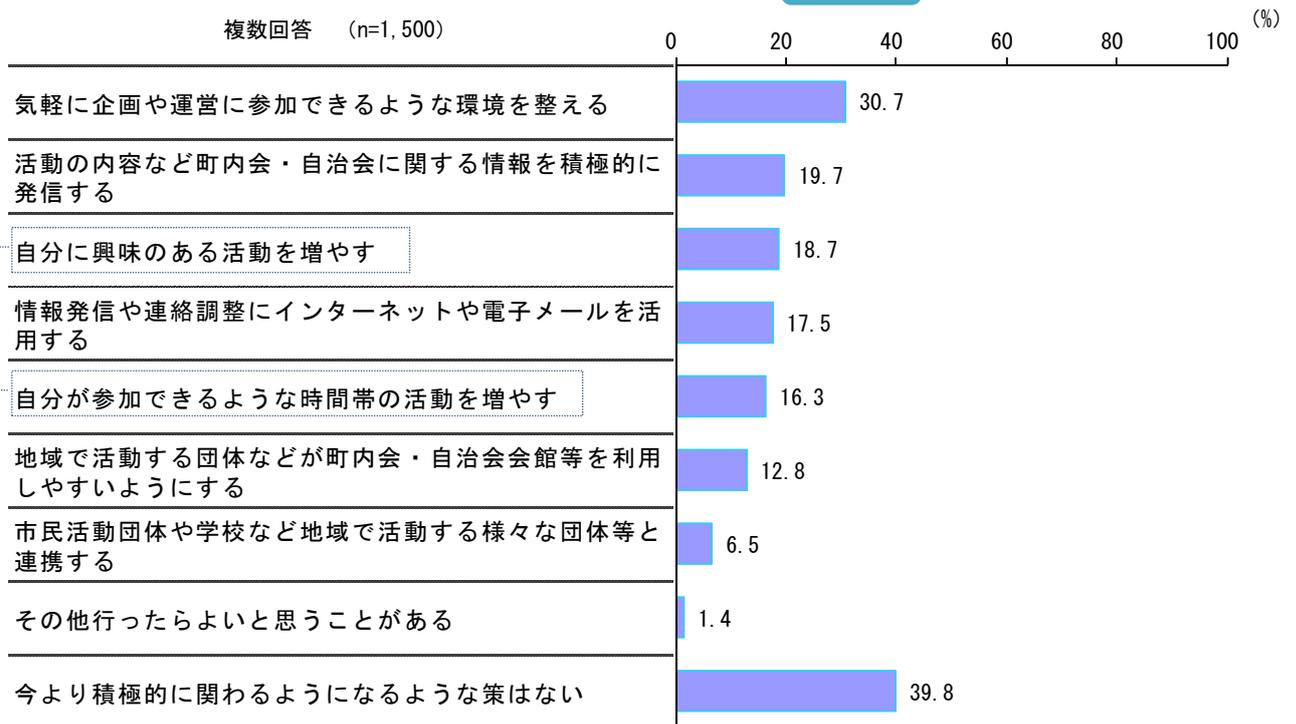
「自分に興味のある活動を増やす」と回答をした方 (281 人) に、「増えると良いと思う活動」を回答いただいたところ、「運動会、スポーツサークル」「イベント、レクリエーション」「趣味の活動、サークル」「清掃、ごみ拾い」「お祭り」が上位に挙げられた。

「自分が参加できるような時間帯の活動を増やす」と回答をした方 (244 人) に、具体的な曜日・時間帯を回答いただいたところ、「休日 (土日祝日) の午前中」が最も多く、次いで「休日 (土日祝日) の午後」が挙げられた。

参加できる曜日は「休日 (土日祝日)」が多く挙げられたが、時間帯は分散傾向が見られる。

■町内会・自治会活動に積極的になるために町内会・自治会がやるべきこと

図3



(「増えると良いと思う活動」の具体的な内容)

※自由回答上位抜粋

- ・運動会、スポーツサークル 19 人
- ・イベント、レクリエーション 16 人
- ・趣味の活動、サークル 15 人
- ・清掃、ごみ拾い 15 人
- ・お祭り 14 人

(「自分が参加できる時間帯」の具体的な回答)

※自由回答上位抜粋

- ・休日 (土日祝) 午前 78 人
- ・休日 (土日祝) 午後 60 人
- ・平日夜間 41 人
- ・休日 (土日祝) 時間帯指定なし 28 人
- ・平日午前 23 人
- ・休日 (土日祝) 夜間 21 人

性年代別では、「男性・40～49歳」で、「自分が参加できるような時間帯の活動を増やす」が他の年代に比べ高めの傾向が見られる。

「男性・60歳以上」で、「気軽に企画や運営に参加できるような環境を整える」、「活動の内容など町内会・自治会に関する情報を積極的に発信する」、「情報発信や連絡調整にインターネットや電子メールを活用する」が他の年代に比べ高めの傾向が見られる。

加入有無別では、「今より積極的に関わるようになるような策はない」の回答が「加入している」層で3割であるのに対し、「加入していない」層では約半数になっている。

■町内会・自治会活動に積極的になるために町内会・自治会がやるべきこと —性別・性年代別・加入有無別—

図4

(%)

		気軽に企画や運営に参加できるような環境を整える	活動の内容など町内会・自治会に関する情報を積極的に発信する	自分に興味のある活動を増やす	情報発信や連絡調整にインターネットや電子メールを活用する	自分が参加できるような時間帯の活動を増やす	地域で活動する団体などが町内会・自治会会館等を利用しやすいようにする	市民活動団体や学校など地域で活動する様々な団体等と連携する	その他行ったらよいと思うことがある	今より積極的に関わるようになるような策はない
全体 (n=1,500)		30.7	19.7	18.7	17.5	16.3	12.8	6.5	1.4	39.8
【性別】										
男性 (計) (n=761)		29.6	19.4	19.6	18.1	17.9	12.4	6.8	1.2	41.4
女性 (計) (n=739)		31.8	20.0	17.9	16.9	14.6	13.3	6.2	1.6	38.2
【性・年代別】										
男性	18～29歳 (n=80)	31.3	13.8	23.8	17.5	13.8	10.0	3.8	1.3	43.8
	30～39歳 (n=162)	25.3	12.3	24.1	12.3	19.1	11.7	2.5	0.6	49.4
	40～49歳 (n=179)	24.6	17.9	17.3	14.0	24.6	10.1	7.3	0.0	45.3
	50～59歳 (n=128)	21.1	15.6	20.3	17.2	20.3	11.7	3.9	1.6	46.1
	60歳以上 (n=212)	41.5	30.7	16.0	26.9	11.3	16.0	12.7	2.4	28.3
女性	18～29歳 (n=124)	34.7	21.8	21.8	14.5	19.4	13.7	0.8	0.8	41.1
	30～39歳 (n=152)	31.6	19.7	19.1	21.1	18.4	10.5	9.2	1.3	34.2
	40～49歳 (n=169)	29.0	15.4	18.3	15.4	13.0	13.0	9.5	0.6	39.1
	50～59歳 (n=119)	31.9	20.2	14.3	21.0	16.0	11.8	2.5	0.8	37.8
	60歳以上 (n=175)	32.6	23.4	16.0	13.7	8.6	16.6	6.9	4.0	38.9
【加入有無別】										
加入している計 (n=814)		35.7	23.2	20.5	20.1	17.4	15.8	8.8	1.6	31.0
加入していない (n=686)		24.6	15.6	16.6	14.4	14.9	9.2	3.8	1.2	50.3

2 女性活躍推進及び働き方の意識について

1 働く場における女性が活躍する機会の広がり

全体（n=1,500）では、「広がってきた」（13.2%）、「どちらかという広がってきた」（46.6%）を合わせた「広がってきた（計）」は約6割となっている。

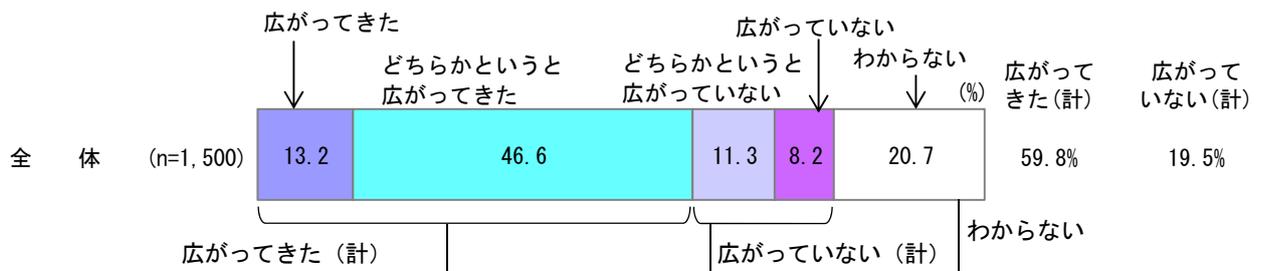
これに対し「広がっていない」（8.2%）、「どちらかという広がっていない」（11.3%）を合わせた「広がっていない（計）」は、約2割となっている。

「広がってきた（計）」と回答した理由としては、「働く女性が増えてきた」（67.1%）が最も多く、次いで「女性の経営者や管理職が増えてきた」（44.5%）が続く。

「広がっていない（計）」または「わからない」と回答した方に、「広がるために必要なこと」をたずねたところ、「働きやすい勤務条件や職場環境」（45.8%）が最も多く、次いで「夫など家族の理解と協力」（34.2%）、「保育サービスの充実」（30.8%）、「上司や同僚の理解と協力」（29.5%）と続く。

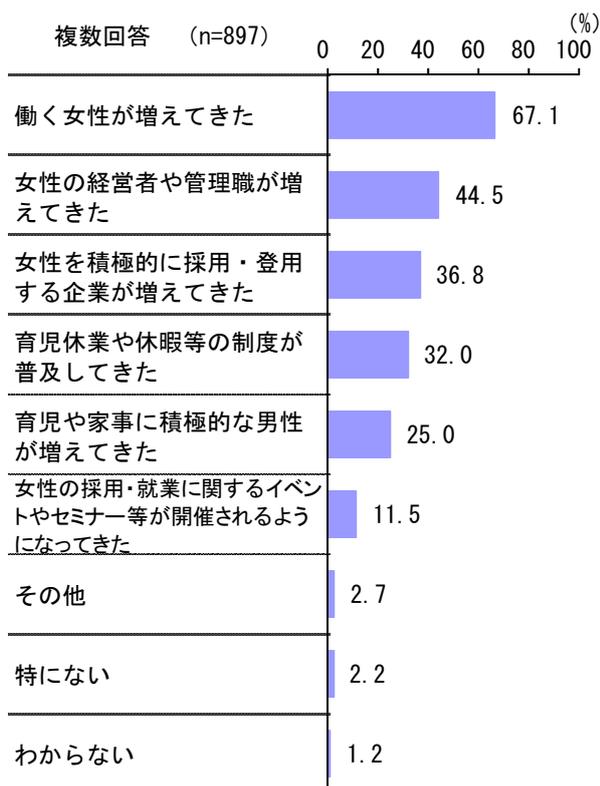
■働く場における女性が活躍する機会の広がり

図5



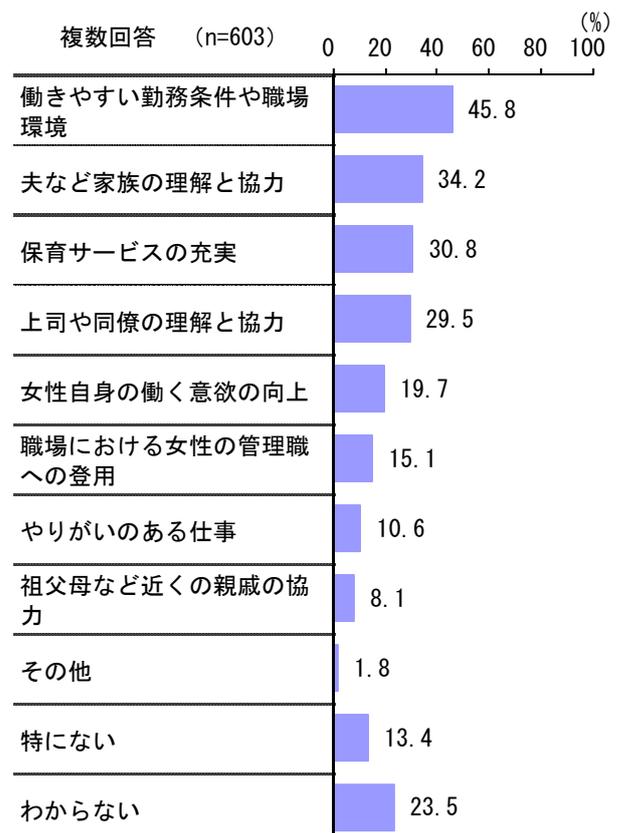
■広がってきた理由

図6



■広がるために必要なこと

図7



男女別で見ると、

「働く場における女性が活躍する機会の広がり」においては、「女性」の「広がってきた」の割合が「男性」に比べ低い。

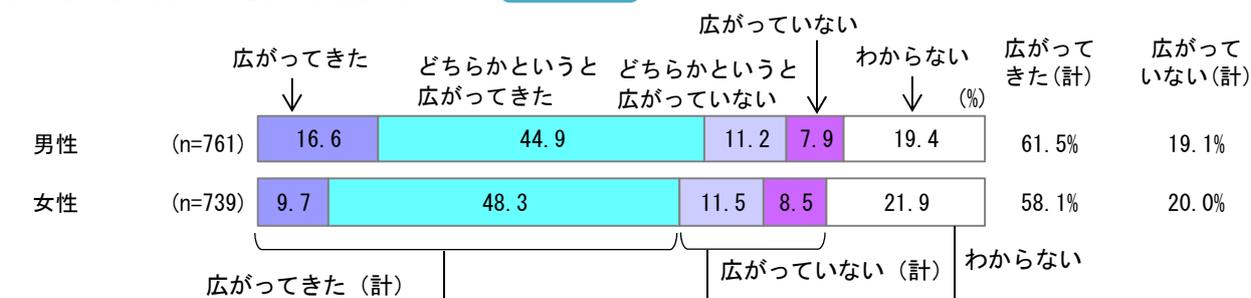
ただし、「広がってきた（計）」で見ると、男女で大きな差は見られない。

「広がってきた理由」においては、「働く女性が増えてきた」「育児や家事に積極的な男性が増えてきた」で、「女性」が「男性」に比べて高く、「女性を積極的に採用・登用する企業が増えてきた」では、「男性」が「女性」に比べて高い。

「広がるために必要なこと」においては、「働きやすい勤務条件や職場環境」「夫など家族の理解と協力」「保育サービスの充実」「上司や同僚の理解と協力」と回答した「女性」の割合が「男性」に比べて高いが、「特にない」「わからない」で「男性」が「女性」に比べて高い。

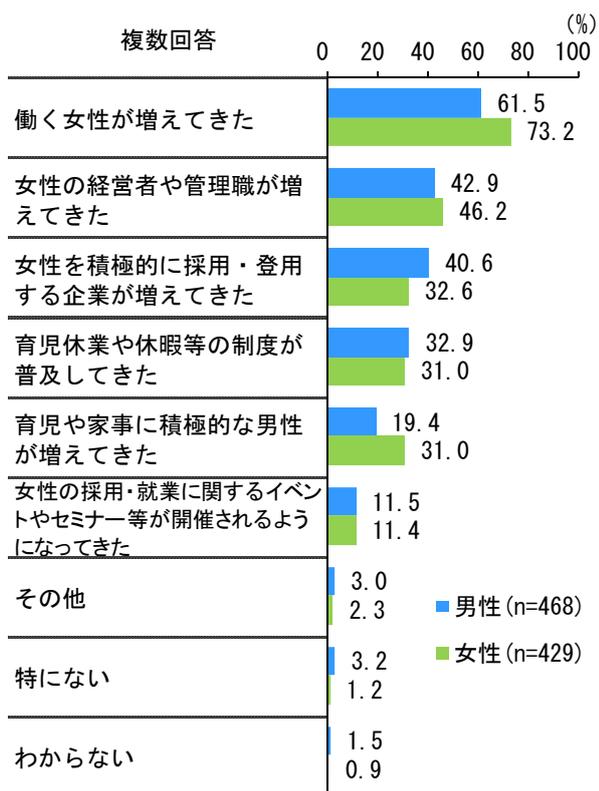
■働く場における女性が活躍する機会の広がり

図8



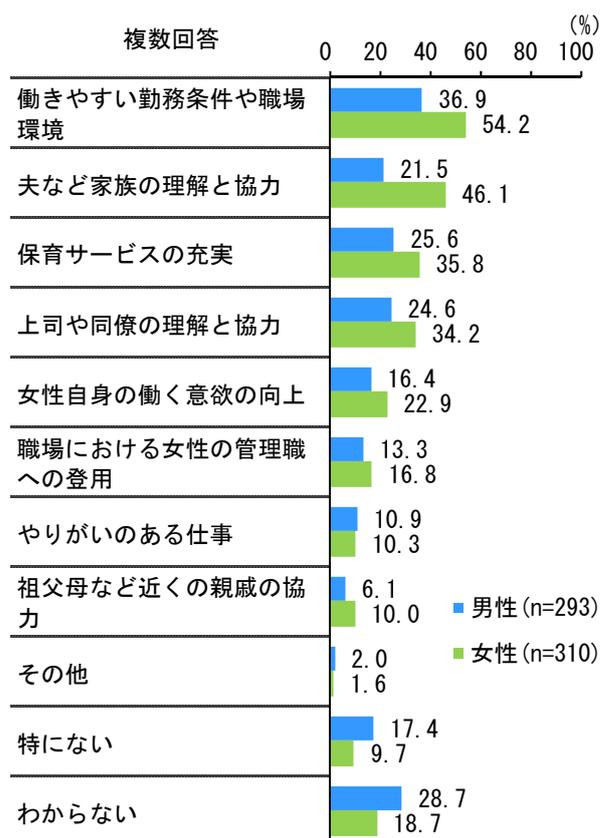
■広がってきた理由 —男女別—

図9



■広がるために必要なこと —男女別—

図10



2 男性が家事・育児・介護を行うことに対するイメージと必要なこと

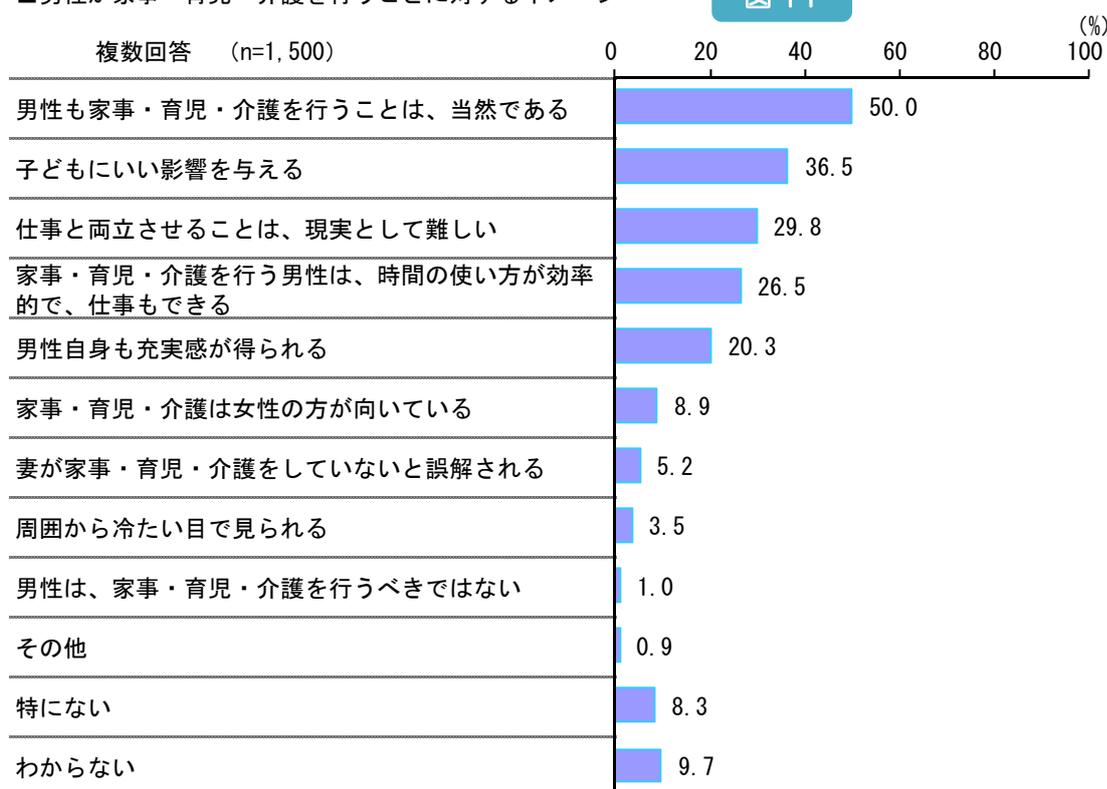
全体（n=1,500）では、「男性が家事・育児・介護を行うことに対するイメージ」については、「男性も家事・育児・介護を行うことは、当然である」（50.0%）と最も多く、次いで「子どもにいい影響を与える」（36.5%）と続く。

一方で、「仕事と両立させることは、現実として難しい」も約3割見られる。

「男性が家事・育児・介護を行うために必要なこと」として、「上司や同僚等の職場の理解」（62.3%）が最も多く、次いで、「男性自身の意識・学校教育や社会教育の場での啓発」（40.9%）、「仕事と家事・育児・介護等の両立支援制度」（38.1%）、「仕事と家事・育児・介護等の両立支援制度を利用することへの理解」（36.9%）と続く。

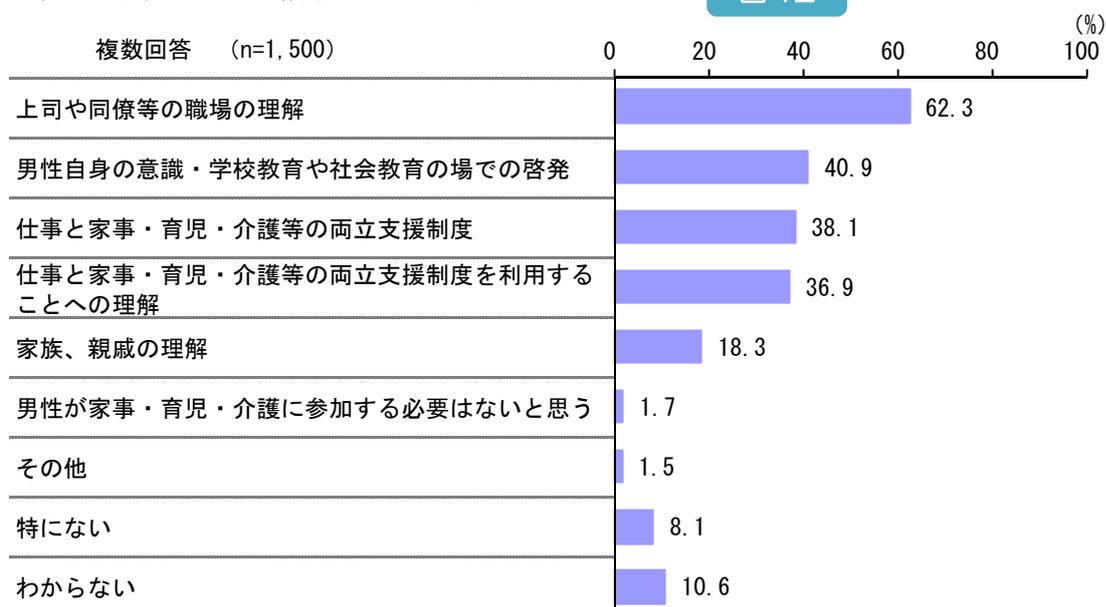
■男性が家事・育児・介護を行うことに対するイメージ

図 11



■男性が家事・育児・介護を行うために必要なこと

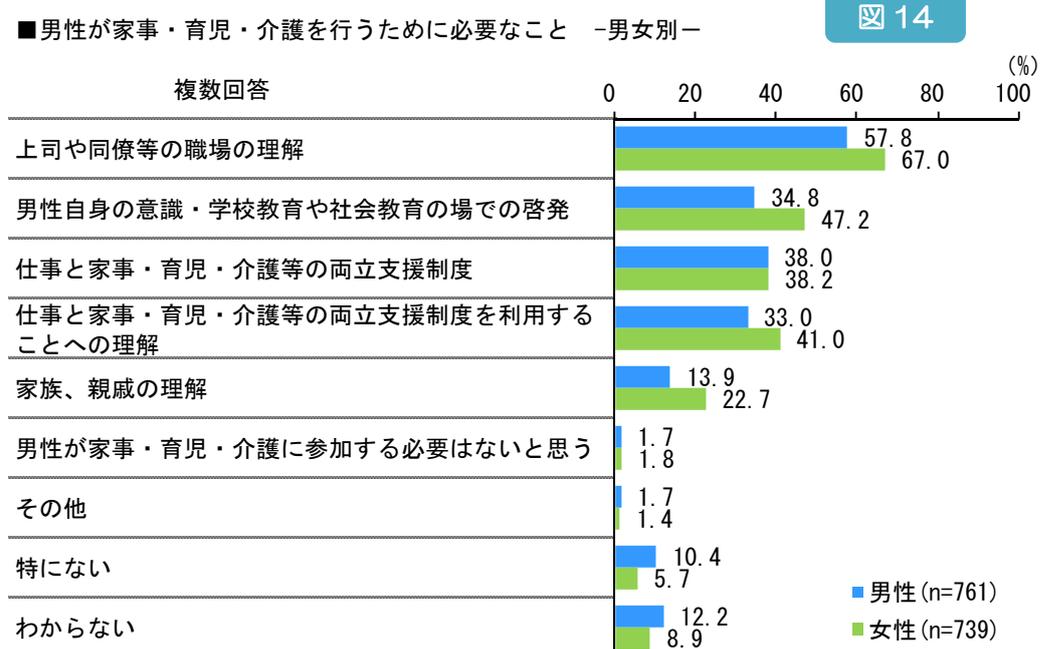
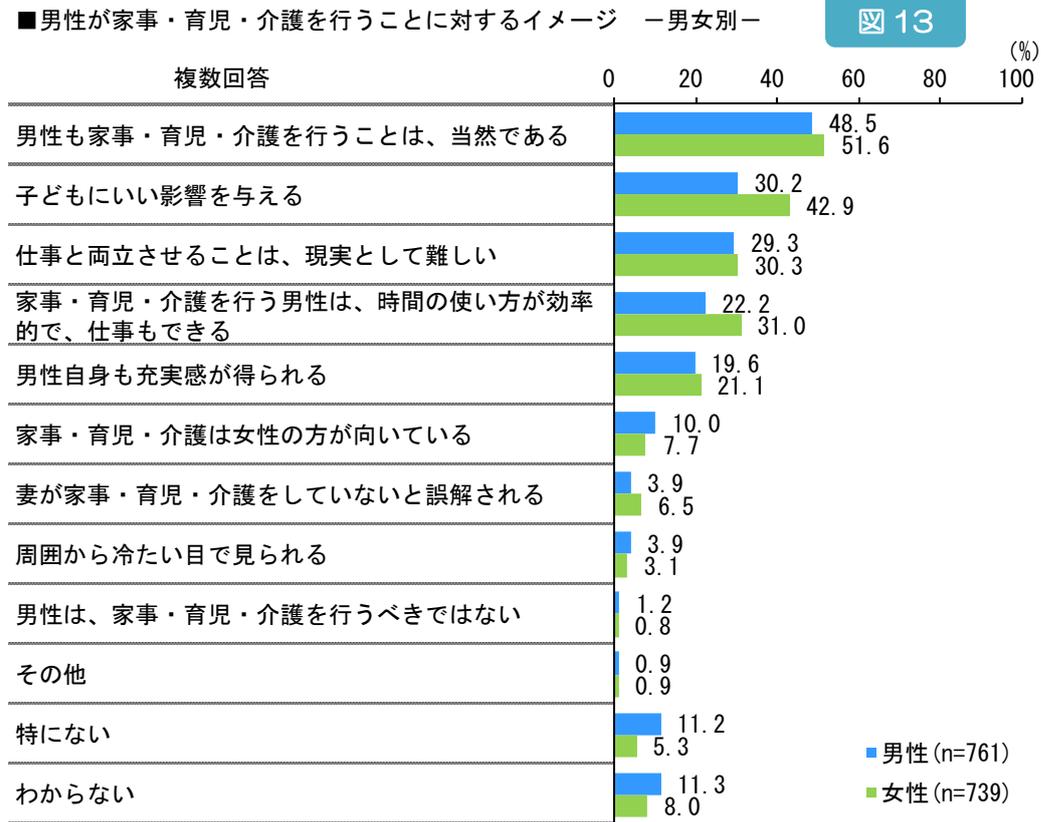
図 12



男女別で見ると、

「男性が家事・育児・介護を行うことに対するイメージ」においては、男女ともに「男性も家事・育児・介護を行うことは、当然である」が最も多く、次いで「子どもにいい影響を与える」が続く。

「男性が家事・育児・介護を行うために必要なこと」においては、男女ともに「上司や同僚等の職場の理解」が最も多く、次いで男性は「仕事と家事・育児・介護等の両立支援制度」、女性は「男性自身の意識・学校教育や社会教育の場での啓発」が続く。

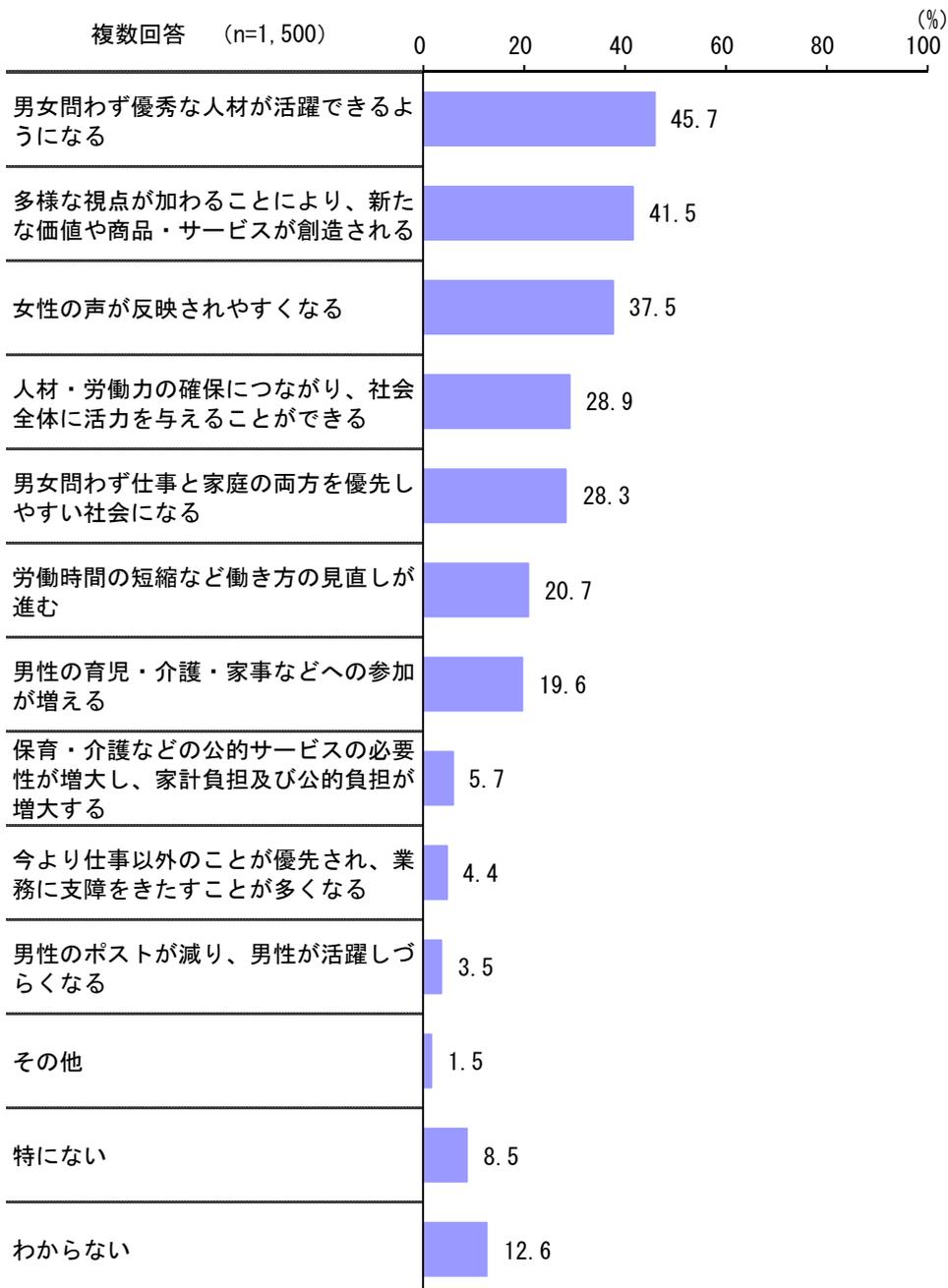


3 女性参加やリーダーが増えることによる社会的影響

全体（n=1,500）では、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」（45.7%）が最も多く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」（41.5%）、「女性の声が反映されやすくなる」（37.5%）と続く。

■女性参加やリーダーが増えることによる社会的影響

図 15

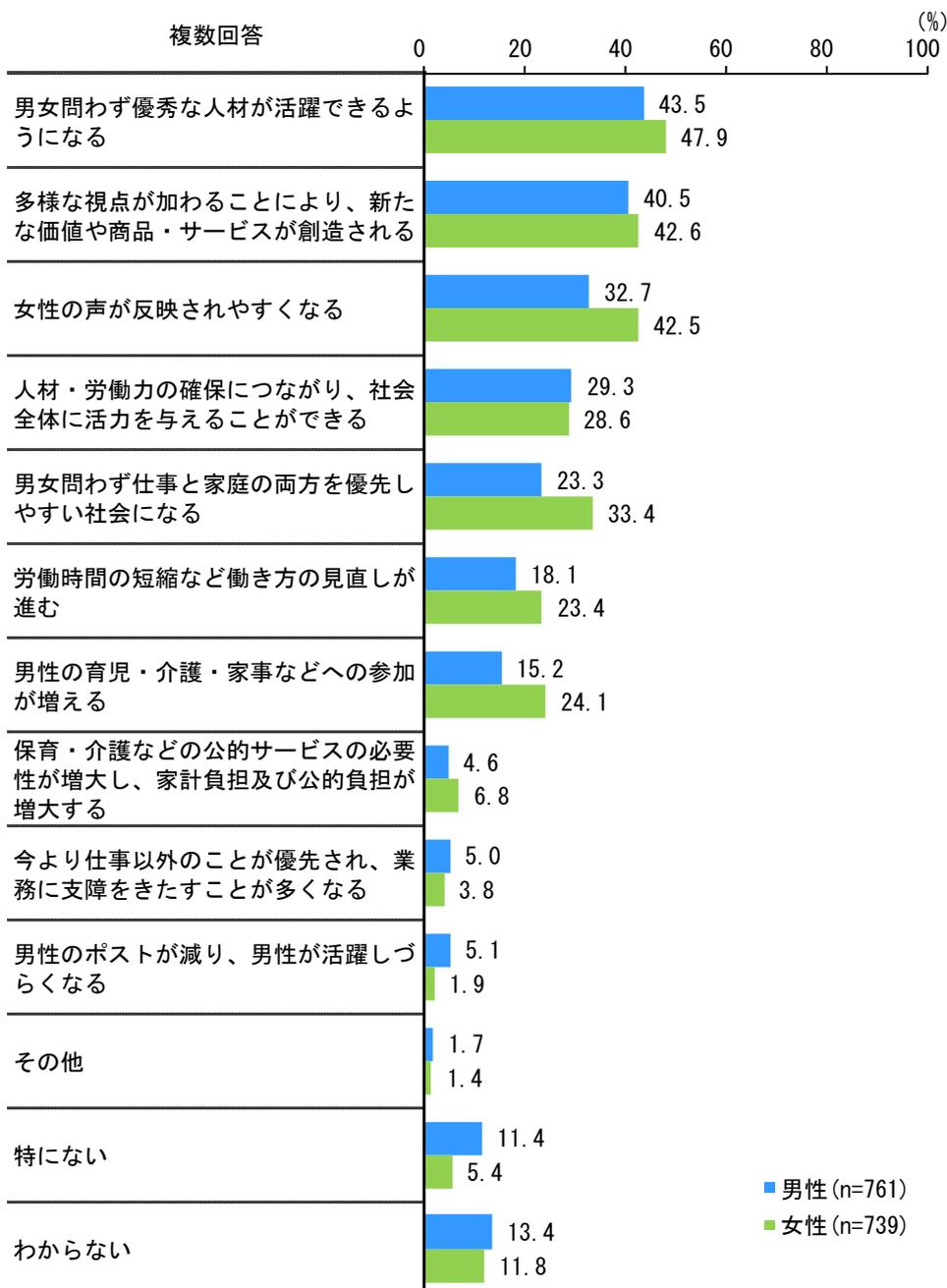


男女別で見ると、

「女性の声が反映されやすくなる」「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」「男性の育児・介護・家事などへの参加が増える」で、「女性」が「男性」に比べ約10ポイント高い。

■女性参加やリーダーが増えることによる社会的影響 —男女別—

図 16



平成28度第1回かわさき市民アンケート概要版
平成28年11月

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2148 (直通)

FAX 044-400-3919